

会議名	令和6年度（2024年度） 第1回 宝塚市子ども審議会			
日時	令和6年（2024年）4月22日（月） 午前 9時30分～10時55分		場所	宝塚市立中央公民館 203・204学習室
出席者	委員	伊藤篤、中谷奈津子、松島京、治部陽介、大西登司恵、平原雅明、中村末葉、西澤千夏、椎山美恵子、石井宏尚、藤由貴、林田桜子、田中誠、山本發生、山田慎治、藤井真人、秦忍、榊井ひとみ、池田尚子、ベルテッリかおる、藤田かおり 計21名		
	事務局	子ども未来部長、総括担当及び子ども家庭担当次長、子ども政策課長、同係長、同係員		
	拡大事務局	子ども育成担当次長、たからっ子総合相談センター所長、子育て応援課長、子ども家庭支援センター所長、子ども発達支援センター所長、保育企画課長、同副課長、保育事業課長、アフタースクール課長、子ども総合相談課長、家庭児童相談課長、健康推進課長、障害福祉課長、せいかつ支援課長、学事課長、学校教育課長、幼児教育センター所長、教育支援課長 計18名		
会議の公開・非公開		公開	傍聴者	なし
内 容（概要）				
1 開会 会議の成立及び公開について 事務局： 委員21名のうち21名出席 宝塚市子ども審議会条例第6条第2項により、委員の過半数以上の出席があったため会議は成立している。 当審議会については公開を原則としている。本日は、傍聴者はなし。				
3 議題 （1）次期計画策定スケジュールについて（案） ○事務局から、資料1に基づき次期計画策定スケジュール（案）について説明。 （意見、質問等なし） （2）アンケート調査結果及び統計情報について ○事務局から、資料2～4に基づきアンケート調査結果及び統計情報について説明。 委 員： 中学校2年生のアンケート結果で、自分がヤングケアラーに当てはまると回答した生徒が2人いるという結果が出ていたが、どのような支援ができるのかが学校の現場としては気になる。具体的な方向性のようなものはあるか。 事務局： 今後、教育委員会や介護、障碍の部門、子ども部門が連携して、支援に当たっていく必要があると考えている。ガイドラインの策定や市民や支援者に向けた研修等を実施している自治体もある。様々な角度から検討していきたい。 委 員： 資料3の22～23ページのひきこもりの結果について、宝塚市でも、狭義の引きこもりの該当者数が25名となっている。ひきこもりについては、様々な問題が多く出てきているところもあるが、ひきこもりの期間が長ければ長いほど、社会に戻る、一歩踏み出すことが難しいと聞いているので、早期から支援ができる方法があればいいと思う。社協でも取組を進めていくが、市でも取組をお願いしたい。 事務局： 宝塚市にはせいかつ応援センターがあり、連携しながら進めたいと考えている。 委 員： 財政が厳しいという現状を説明いただいたが、現在、新1年生になる子どもが育成会に入所できていない。大人がやり取りをして子どもの放課後を見ている状態だが、金曜日は学校を早退しなければならない状況になっている。担当課とも話をさせていただいたが、最終、財政が厳しいという話になる。宝塚市の財政が厳しいということで、子ど				

ものの権利が十分受けられないというのは大きな社会問題だと感じる。子ども自身の教育を受ける権利も見直していただきたい。

事務局： 財政が厳しいからといって、子どもの権利が侵害されるということはあってはならないことだと思っている。財政当局とも調整しながら、対象が重複する事業は統合したり、時には事業を廃止したりするということも踏まえて検討していく必要があると思っている。ただ、育成会やお子さんを預けて見守っていくところは充実していかなければならないという気持ちは持っているの、内部でも議論しながら、検討していきたい。

(3)「こども大綱」及び「市町村こども計画」について

○事務局から、資料5、参考資料に基づき「こども大綱」及び「市町村こども計画」について説明。

委員： こども大綱の7ページにこどもまんなか社会と、子どもの権利について出ている。アンケートと関連するが、小中学校の児童・生徒の中で、子どもの権利をよく分からない、知らないという意見が4割、5割あったので、子ども自身が自分を守られてもいい権利を持っているということを知ってもらう働き掛けが必要だと思う。

事務局： 今年度から、子ども政策課で所管する子どもの権利サポート委員会の委員が、出前講座のような形で学校から希望があれば学校に出向き、保護者、教職員、子どもに向けて、子どもの権利の周知、啓発、子どもの権利サポート委員会の活動内容の周知をしていきたいと考えている。夏場のパワーアップ研修でも、教育委員会と調整をして研修に位置付けして、子どもの権利について、大人がしっかり理解して、子どもたちへ伝えていけるようにしたい。

委員： こども大綱のこども施策に関する基本的な方針のうち(1)、(4)が個人的に気になるが、こういう内容を読むと、教育と福祉と地域の価値観の3つが関連すると思う。

人権教育は学校でも熱心にやっているし、宝塚市の中でも人権相談のダイヤルが複数あることは知っている。あとは、地域が大きな問題だと感じている。学校と地域の2つは密接に連携しているので、子育てに関する保護者の負担感を考えると、地域が保護者をどのように見ているかや保護者をどのように支えるかが重要な点だと思う。教育が子どもを支え、福祉が包括的に家庭を支える。そのときに地域で何ができるか、そこが変わらないと、大きな計画を作っても、一番困っている、負担感を抱えている人の助けにはならないと考えている。地域の価値観とどのように向き合っていくかが重要なテーマではないか。

事務局： 市も子どもや子育て世帯を温かく見守ってもらえる機運の醸成を目指している。子どもに無関心な層にどう働き掛けていくか、少し子どもに関心がある層にどう働き掛けていくかが大事になってくると考えている。

委員： 現行の「『育み』プラン」は、計画ごとに章立てしており内容が重複しているところもあるので、新たな計画では、計画ごとに章立てしないと説明があったが、こども大綱では、ライフステージ別に項目立てされている。新たな計画の構成について、現時点でイメージしていることがあれば教えていただきたい。

事務局： 具体的な構成はこれからであるが、今回、分かりやすくすることが求められているので、重複は避けながら、簡素な表現で分かりやすくし、体系立てもシンプルにしていきたいと考えている。

会長： 次期計画イメージは、今までの「『育み』プラン」は、資料5のうち①、②、③、⑤が入っているが、新しく④の子供・若者計画の部分も入るという理解でいいか。

事務局： そのとおりである。

(4)子ども・若者ワークショップの実施について(報告)

○事務局から、資料6に基づき子ども・若者ワークショップの実施について説明。

委員： 職業体験や交流体験はすでに実施されていると思うが、もう少し充実させたほうが良いなど、どのように展開していくのか、見通しがあれば教えていただきたい。

事務局： 施策について各部局にも照会して、とりまとめしていきたいと考えている。足りない

ところは、子ども審議会委員の皆様にもご意見をいただきながら、議論を進めていきたいと考えている。

(5) 小委員会の設置について

○事務局から、資料7に基づいて小委員会の設置について説明。

会 長： 選ばせていただいた小委員会の9人の皆さま、よろしくお願いします。今年度中4回ぐらい集まっていただく。私から小委員会の委員長に中谷委員を指名する。

(6) 次世代育成支援行動計画個別事業取組状況（令和6年度計画）

○事務局から、資料8に基づき次世代育成支援行動計画個別事業取組状況（令和6年度計画）について説明。

委 員： 令和6年度の新規事業で、私立保育園助成金事業という保育士不足に対応する制度を創設いただいたことについて、私立保育園から宝塚市に対して御礼を申し上げたい。少しでも人材不足を担えるように対応していきたいが、まだ地域格差という難しい要因があることを委員の方々にもご理解をいただきたい。

保育所には助成金事業があるが、幼稚園には同じような事業があるのか教えていただきたい。また、資料の事業の予算について、取組ごとに具体的な数字を記入するほうが規模も分かり良いのではないかと前回提案したが、改善いただけないということは何か事情があるのか。

事務局： 宝塚市の保育所は、国の基準以上に保育士の配置をお願いしており、保育士の確保に向けた支援をしている。一方で、認定こども園や幼稚園は、原則的に国の配置基準どおりの運営をお願いしているので、支援の対象とはしていない。

事務局： 市立保育所保育実施事業の中の地域子育て支援拠点事業等については、予算と決算は市立保育所保育実施事業でまとめて取っているの、特出しするのは難しい。

4 その他

○事務局より、次回の小委員会、全体会について、改めて連絡する旨案内。

閉会